

第3回学校運営協議会 議事録

日時 令和6年2月16日(金) 15:00より

場所 大阪府立清水谷高等学校 校長室

出席者

協議会委員	会長 田中 保和 様	出席
	副会長 須藤 隆二 様	出席
	竹内 直樹 様	出席
	嘉田 恭永 様	欠席
	近藤 清子 様	出席
	野原 久実 様	出席
校長	日笠 賢	出席
事務局	林 拓磨	出席
	太居 豊	出席
	納江 良子	出席
	高田 雄	出席
	網 真明	出席

1. 会長挨拶

協議会委員 田中会長よりごあいさつ

2. 校長挨拶

学校長 日笠よりあいさつ

3. 学校の状況報告

①令和5年度の学校教育自己診断の集計結果について報告した。

生徒・保護者・教職員に実施したアンケートの結果報告。「清水谷高校へ進学してよかった」と肯定的にとらえている生徒、保護者が90%以上であった。外部との交流については、今年度は国際交流の復活、新規実施や文化祭への幼稚園招待、小学校保護者説明会、外部社会人講師による講演などの外部連携を実施できたので、学校として思っていた通り、生徒も保護者も肯定的に感じているようだ。教職員同士のつながりについては、昨年度より肯定的意見が上がったものの水準はまだ低いため、職員室の座席配置変更などの環境づくりを進めていく予定である。教職員アンケートの「部活動の活性化に努めている」項目も肯定的意見が下がっているが、働き方改革で定時退庁日の徹底などをして従来と活動形態が変わったためであると考えている。

②令和5年度の学校経営計画及び学校評価(案)について報告し、承認された。

学校教育自己診断の集計結果をもとに、自己評価を記入した。「1.確かな学力の定着と学びの深化」については、生徒の「清水谷高校は学ぶ意欲を引き出す授業をしている」の肯定は目標値を上回ることができなかった。

今後も工夫が必要である。それ以外の項目については全て、維持、または、上回ることができた。

「2.非認知能力を育成する教育機会の充実と希望の進路の実現」については、「自治会活動が活発に行われている」「清水谷高校は自治会活動が活発に行われている」が低下し、90%を切っているが、昨年度は制服導入に関して自治会の活動がとても活発であったが、今年は大きな出来事がなかったため昨年度の反動とみている。

「3.キャリア教育の充実と希望の進路の実現」についても目標値を維持できている。進路実績のまとめはまだ出すことはできないが、様々な入試形態に対応した指導を進めており、結果が出始めている。「4.多様な主体との連携や協働の充実と府立学校の魅力づくり」についても、多くの外部講師の招聘や海外交流、小学生の保護者など様々な年代に向けての学校説明会などの実施もあり、すべての項目について基準値を上回っている。

「5.力と熱意を備えた教員の育成と学校組織づくりによる『働き方改革』の推進」は、担任団の連携強化のための取り組みは実施できているが、生徒の「担任の先生以外にも保健室や相談室などで気軽に相談できる先生がいる」や、教員の「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の項目は基準値をクリアすることはできなかった。教職員の月間超過勤務時間数については17%減らすことができた。

③令和6年度の学校経営計画および学校評価(案)について報告し、承認された。

府立学校への指示事項の変更部分を反映させ、令和5年度のを微調整したものである。目標値については、今年度達成できたものについては維持を目標としている。

4. ご意見・ご質問

会長 田中 保和 様

- ・働き方改革に関する教職員アンケートは実施していないのか
⇒学校評価アンケートとしては実施していないが、今後は実施する必要性を感じている。
- ・「学ぶ意欲を引き出す授業をしている」と「自治活動が盛んである」のポイントがどちらも上がりきっていないのは理由があるのではないのか
⇒新学習指導要領に基づく新しい考え方、教え方へのソフトチェンジが上手くいっていないところも一部あると感じている。そのせいもあるのかもしれない。
- ・観点別評価はどうか
⇒新しい評価のつけ方にまだまだ苦労している先生もいる
- ・世間では講師不足が叫ばれているが、清水谷ではどうか
⇒急な病休などですぐに対応できないことはあったが、今のところ問題はない。
- ・学校に来ると、生徒が挨拶してくれているので、非常に良い雰囲気である

副会長 須藤 隆二 様

- ・反転授業のメソッドとはどのようなものか
⇒生徒に事前に授業内容を個別に定着させておき、授業ではそれについての話し合いや質問などを扱うという授業スタイルであり、知識・技能以外の思考力・判断力・表現力等や学びに向かう態度等の2観点を授業の中で伸ばしていくものである。教員の手間はかかるが、生徒にはよい。ただし、生徒の準備、予習時間もかかるので学校全体としてマネジメントが必要である。
- ・外部講師を呼ぶのは、非常に良いことである。清友会でも、講師をつとめてくれる人を探してみたい

竹内 直樹 様

・中学校でも講師探しは苦労している

近藤 清子 様

・校長先生のブログを楽しみにしている。コロナが去年の5月に五類になって、できなかったことができるようになってきている。失っていた「当たり前の日常」を維持してほしい。また、開かれた校長室であるのは良いと思う。後は卒業式を待つだけですが、入学させて良かったと思っている。

野原 久実 様

・フリーアナウンサーの講演を聞いてから何か子どものスイッチが入った感じがしている。外の社会を見られる機会を多く作っていただいて、保護者の1人として感謝している。子ども1人1人の内から興味が出てこない、教員から教えるばかりでは難しいのではないかと。先輩など実社会を知っている外部の方の話が生徒の良い刺激になる、自然に意欲の沸く素晴らしい機会であるので、これからも続けていってほしい。これが清水谷高校への特色につながっていくと思う。

⇒講師の先生の話し方は、教員のほうにも勉強になったようである。お金の問題もあるが、コロナが明けたこともあるので、これからも様々な方面の方の招聘や、民間企業と連携を深めていく予定である。

5.連絡

来年度についての連絡